



赤平市長  
畠山 渉

新年あけましておめでとうございませう。

新春にあたり、市民の皆様におかれましては、期待に満ちた新年のスタートを迎えられたものと、心からお慶び申し上げます。

さて、市民の皆様からの期待を胸に市政を担わせていただいた私の任期は、今年で最終年を迎えます。任期の大半を新型コロナウイルス感染症の対応に追われることとなりましたが、赤平市の取り組みに対し多くの皆様から感謝の言葉をいただきました。特に新型コロナウイルスの接種にあたりましては、赤平市医師会、平岸病院、佐々木内科クリニック、あかびら市立病院の医師をはじめとする医療スタッフと各福祉施設の介護スタッフの皆様、円滑な連携と創意工夫のおかげであり、心から敬意を表する次第でございます。

そして、市民の皆様や飲食店、企業の皆様へ可能な限りご支援をさせていただきましたが、何より早急な取り組みができたのも市議会・商工会議所のご理解とご協力があって成し得たことと、あわせて心から感謝を申し上げます。

また、今年、茂尻・豊里・赤間の三つの小学校が統合し、新生「赤平小学校」として子どもたちにとっては、新たな船出となります。これまで校長先生をはじめ職員の皆様には、子どもたちが確かな力とたくさんの楽しい思い出を携えて、統合校へ向かうことができるようご尽力をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。子どもたちは、きつと統合という大きな変化にもしなやかに順応していくことと信じています。今まさに地球規模で猛威を振



る感染症の影響により社会や生活の変革も求められ、予測困難な時代を生き抜くためのすべが必要ですが、大切なのは変わりゆく環境に適した変化を常に探求するスタンスです。そして、私は、科学的な根拠と市民との対話による総合的な判断と、さらに市民に対する説明責任と結果責任を果たすのは、政治の重要な役割であると考えており、住民主権、住民参加、住民福祉の諸原則の実現に向け、残りの任期を全力で取り組んでまいります。結びに、市政に対する市民皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。年頭のごあいさつとさせていただきます。

あけましておめでとうございませう。

市民の皆様には、ご健にて新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症のまん延から1年がすぎ、生活様式は激変し、仕事のあり方や今までと違う生活に不自由を感じながらも、ワクチン接種が始まり、赤平市においても接種が実施されました。感染防止対策やワクチン接種が広まり、年の終わりころには感染者数も低い推移をたどり、胸をなで下ろしていると思えます。

赤平市議会では、コロナ禍で疲弊した市内の企業や商工農業者への支援など、コロナ対策はもちろんで、従来からの課題である、人口減少や少子化、高齢者が安心して生活できる施策の充実や閉校

後の学校を含めた未使用公共施設の対応、市民の生活に欠くことのできないライフラインの課題、防災対策とあげきれない諸問題に対して、10人の議員でさまざまな角度から、しっかりと未来を見つめ、赤平市のあるべき姿を想像し議会活動を進め、新しい年も「まちづくり」の一翼を担ってまいります。

今後も議会に対する、より一層のご理解とご支援をお願いいたします。また、議会の活性化、議員の資質向上への取り組みとして、議会改革を行なっており、昨年は、議場でのやりとりが市民の皆様と理解いただくことは議員の責務との考えから、これまでではなかった、議員が行なった質問に対して趣旨を確認することを行政側に認めることや、コロナ禍で休止していた議会報告会と意見交換会を開催し、地域の貴重な

ご意見をいただきました。今後も、一人でも多くの市民の皆様の声聞き、各町内会にも目を向け、地域の課題に取り組む議会でありたいと思っております。市民の皆様には、議会の傍聴にも足をお運びいただき、ご意見を賜りたいと存じます。

結びに、新型コロナウイルス感染症は、まだまだ油断できない状況です。新たな変異株の報道に不安を感じていることと思いますが、過度に恐れず、コロナ禍の新しい生活様式を理解し、感染対策にしっかりと取り組みながら、医療崩壊を防ぎ、経済を動かすこともこれからは大切なことだと思えます。その間に有効な薬や対策ができることを期待し、市民皆様様の末永いご健勝とこの一年のご多幸を心よりご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



赤平市議会議長  
竹村 恵一

